

せいしょかしよ き しょう
聖書箇所：ルツ記1章

きょう
◆今日のみことば

「ナオミは彼女たちに言った。『私をナオミと呼ばないで、マラと呼んでください。全能者が私を大きな苦しみにあわせたのですから。』」ルツ記1章20節

◆メッセージ

あなたは今、悲しくてたまらないかもしれません。ナオミもそうでした。家族四人でモアブという外国に引っ越して住んでいましたが、その地で、頼りにしていた夫が死んでしまったのです。それでもナオミは、二人の子どものため悲しんでばかりもいられず、いっしょうけんめい働きました。ところが、自分のいちよりも大事なその子どもたちまで、次々に死んでしまったのです。たった一人になってしまったナオミは、どんなに悲しくてさびしかったことでしょうね。

ナオミは、ふるさとのベツレヘムに帰りました。昔のナオミを知る人たちに、「私をナオミ（快い）と呼ばないで、マラ（苦しい）と呼んでください。」と言うほど、ナオミの心は苦しみにいっぱいでした。「苦しい」という名前のほうが今の私にぴったりだという気持ちだったのですね。ナオミのように、苦しい時は苦しいと言っていいのです。泣きたい時は泣いていいのです。がまんして、平気そうな顔をする必要はありません。

でも、続いてナオミが「全能者が私を大きな苦しみにあわせたのですから」と言ったのは、どういう意味でしょうか。神をうらみ、神はひどいと非難しているのでしょうか。そうではありません。ナオミは、自分がどんな苦しみにあおうと、それを偶然や人のせいにはしていません。全能の神がなされたことだと受けとめているのです。「全能」というのは、「何でもできる」ということです。世界を造られた全能の神に、間違いや失敗などあるはずはありません。なぜ悲しいことが起こるのか理由は全くわからなくても、この神に信頼し続けましょう。神は、あなたを見捨てたのではなく、今も、あなたを心から愛しておられるのです。

ナオミは、悲しみにいっぱいでした。それでも全能の神を信じ続けたナオミに、神はすばらしい計画を用意していただきました。今どんなにつらくても、全能の神を見続けましょう。いつか必ずあなたにも、やさしい神の御手が見えてくるはずですから。

◆お祈り

「神さま、今とても悲しいです。でも、どんなつらいときでも、全能の神さまに信頼することができますよ、お助けください。」

(和泉福音教会伝道師 遠藤芳子)